

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成29年度 技術情報第4号（普通期水稻のいもち病）について（送付）

本年のいもち病の発生状況は以下のとおりで、今後の発生に注意し、適切な防除対策に努めてください。

平成29年度 技術情報第4号

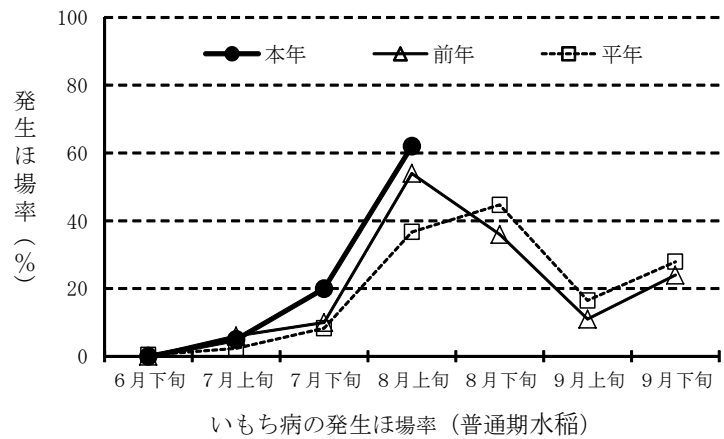
- 1 対象病害虫 いもち病  
2 対象作物 普通期水稻

3 発生状況

(1) 7月中下旬(7月13～21日)に行った巡回調査(県内31地点:調査ほ場数62ほ場)での発生ほ場率は20%(平成8%)と平年より高い状況にあったが(グラフ及び表1)、発生程度はすべて少発生であった。

(2) 8月上旬(8月1～4日)に行った巡回調査での発生ほ場率は62%(平成37%)で、依然として平年より高い状況にあった(グラフ及び表1)。

また、県全体での発生程度が中以上の発生ほ場率が9%(平成4%)と平年よりやや高い(表2)。



4 防除対策

- (1) 既に葉いもちの発生が認められているほ場では、粉剤または液剤による穂いもち防除を出穂前の穂ばらみ後期までに予防的に行う。
- (2) いもち病の常発地やイネの葉色が濃いほ場では、窒素質肥料の追肥は控える。
- (3) 葉いもちの発生程度が高く穂いもちの多発が懸念されるほ場では、穂揃前に補完防除を行う。

5 防除上注意すべき事項

- (1) QoI剤耐性イネいもち病菌の発生が確認されているので、本田散布の際のQoI剤の使用は年1回以下とする。
- (2) 薬剤散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守し、飛散に十分注意して行う。

表1 葉いもちの発生状況

地 域 名	発 生 ほ 場 率 (%)			
	7 月 中 下 旬 調 査		8 月 上 旬 調 査	
	本 年	平 年	本 年	平 年
南 薩	30	6	60	21
北薩平坦	13	9	50	29
北薩山間	9	9	68	58
大 隅	50	8	83	32
県 全 体	20	8	62	37

※ 本年の7月中下旬調査は7月13～21日，8月上旬調査は8月1～4日に実施。

※ 平年は2007～2016年までの平均値。

※ 巡回調査地点（31地点：62ほ場）

南 薩：南九州市知覧町永里・川辺町古殿・川辺町勝目，日置市伊集院町大田，いちき串木野市大里

北薩平坦：鹿児島市東佐多町，蒲生町楠田，始良市三拾町，霧島市隼人町住吉・国分上小川，

薩摩川内市宮崎・高江，入来浦之名，阿久根市鶴川内，出水市野田町屋地・高尾野町東干拓・六月田

北薩山間：さつま町宮之城平川・宮之城時吉・鶴田大角・中津川，薩摩川内市祁答院町上手，

伊佐市菱刈前目・田中，伊佐市大口金波田・木崎・山野，湧水町北方

大 隅：曾於市末吉町高松・大隅町笠木，鹿屋市野里

表2 葉いもちの発生程度別ほ場割合（8月上旬調査）

地 域 名	発 生 程 度 別 割 合 (%)				
	甚	多	中	少	無
南 薩	0	0	0	60	40
北薩平坦	0	4	13	33	50
北薩山間	0	0	5	64	32
大 隅	0	0	0	83	17
県 全 体	0	2	7	54	38
平 年	0	0.2	4	33	63
2016年	0	0	5	49	46
2015年	0	0	6	26	68
2014年	0	0	4	32	64
2013年	0	0	4	47	49
2012年	0	0	0	17	83
2011年	0	2	11	24	63
2010年	0	0	2	17	81
2009年	0	0	4	61	35
2008年	0	0	2	44	54
2007年	0	0	0	10	90

※ 平年は2007～2016年までの平均値。

※ 発生程度別基準

甚：下葉は枯死し，完全なずり込み症状を呈する（病斑面積率 50%以上）

多：かなり病斑がみられ軽いずり込み症状を呈する（病斑面積率 10%程度）

中：病斑がかなりみられる（病斑面積率 2%程度）

少：病斑がわずかにみられる（病斑面積率 0.5%程度）

無：病斑なし